令和８年度　美里町立美里中学校　／　全国学力・学習状況調査　(D)調査分析

教科に関する調査結果から

	国語	数学	英語（４技能） (IRT スコア集計値)
本校平均	６３％	６０％	４６０
埼玉県平均	６６％	５９％	５０７
全国平均	６３．９％	５７．０％	４９９

〇よい傾向のもの
▲改善の必要があるもの⇒改善案

国語	〇「投げられる」を説明したものとして適切なものを選択する（本校 87.5%、県 86.7%、全国 84.3%） 〇書いた文章について、交流を基にして、「この文章のよい点や改善点」と「今後随筆を書くときに生かしたいこと」を書く（本校 50.0%、県 46.9%、全国 45.0%）
	▲話合いを受けてどのような意見を述べるか、自分の考えを書く（本校 45.0%、県 54.9%、全国 52.7%） ⇒「話すこと・聞くこと」の単元において、教科書の QR コードで見られる動画や、教師の見本動画等を用いて、他者の意見をふまえながら、自分の意見をもつという活動を行う。「他者の意見を理解する」→「自分の意見をもつ」というようなステップをふむ。また、話す際にも複数の話形を提示するなど、かたちを身につけることも行っていく。 ▲二つの例文を比べながら、擬態語「きっぱり」が表している具体的な様子と擬態語の効果を書く（本校 37.5%、県 42.1%、全国 38.9%） ⇒主に「読むこと」の説明的文章において、読み取った内容や筆者の考えに対して、自分の解釈や考えを書く活動を行う。「読み取ったこと」の確認をし、「自分の考え」を書くというステップをふむ。必要に応じて書く型を複数提示し、文章の型も身につけさせていく。
数学	〇反比例の関係を表す表の特徴を捉えて、ｘの値に対応するｙの値を求めることができるかどうかをみる（本校 65.0%、県 57.3%、全国 55.3%） 〇筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる（本校 58.8%、県 52.8%、全国 46.1%）
	▲２直線が平行になるための条件を理解しているかどうかをみる（本校 33.8%、県 52.0%、全国 49.1%） ⇒問題文や図形から条件を見いだす活動を行う。また、文章から条件を式に起こしたり、逆に式を自分の言葉で説明し合ったりする活動を行う。苦手な生徒には、文字に起こさなくても指さしで「ここととここの角が（辺が）等しいから」のように説明させる。 ▲具体的な事象を基に、証明する事柄の仮定を見いだすことができるかどうかをみる（本校 33.8、県 39.2、全国 37.1） ⇒主に証明、説明の授業で、仮定と結論を毎回必ず確認し、それを図示する。また、前述した条件を見いだす活動の中で、「この式はどんなことを意味しているのか」「なぜこの条件が成り立つのか」を繰り返し問い、生徒に考えさせる活動を行う。
英語 「３ 技 能」から１つ 「話すこと」から１つ を目安に分析する。	〇レストランでの対話（本校 64.6、県 59.9、全国 61.3） 〇トムと交流会でしたいこと・その理由（本校 52.0、県 48.2、全国 45.4）
	▲【Reading】短い文章を読み、概要を捉える（本校 22.2%、県 51.3%、全国 50.7%） ⇒概要や必要な情報を捉える練習を行うことで、すばやく文章を読み解く力をつける。概要を捉える練習では、段落ごとに一番伝えたい内容に下線を引かせる。必要な情報の読み取りでは、キーワードを文章中から見つけ、答えの根拠を捉えられるようにする。 ▲【Speaking】自分の好きな人物とその理由を話す（本校 12.0%、県 50.2%、全国 48.3%） ⇒何から話せば良いか悩む生徒が多いため、「ざっくり⇒具体⇒感想」の流れで話すように指導する。また、自分の考えや思いをシンプルな英語で表現できるように授業の中で練習する。毎学期、ＡＬＴとの Speaking test を行い、生徒自身が自分の成長や課題を実感できる機会を作る。
	〇分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、エ

生徒に対する 質問紙調査から	夫することはできていますか（本校89.9%、県81.3%、全国78.2%） ○１、２年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか(本校 87.3%､県 77.6%､全国 70.8%) ○授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか（本校 89.9%、県 80.7%、全国 78.0%） ※昨年度は県より-４ポイント、全国より-0.8 ポイントだった。
	▲「あなたの学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思いますか」当てはまる（25.3%）、どちらかと言えば当てはまる（39.2%）の合計（64.5%）は、県・全国の平均値よりも低い（県 72%、全国 67.5%）。 ⇒教室での発言に対する安心感や自己主張をすることへの環境が整えられていない現状があるような数値である。また､「どちらとも言えない」という割合が 31.6%と県 22.7%、全国 26.4%と比べ高いことからも、発言に対して前向きになれていない結果と言える。そして「当てはまらない」と答えた割合が 3.8%で、県 1.7%、全国 2.0%に比べると高い部分も気になる結果となっている。 こういった状況からも､現在取り組んでいる対話的な授業の中で意図的に発言をさせる機会やその発言から授業を組み立てるような手立てを講じ､まずは教員を挟んだ状態で安心して発言・発表ができる環境づくりをしていく。 ▲「学校での悩みについて、あなたの親や家族は、どれくらいあなたと話しますか」について､年１～２回と全くしないという回答が､本校 50.7%と半数を超える。県 41.0%、全国 41.4%から比べても高い数値である。 ⇒「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の質問においても､「当てはまらない」｢どちからといえば当てはまらない」の合計は県の結果に比べると低く出ている。(本校 25.3%、県 22.6%) 子どもたちの悩みも多様化している部分をふまえると､各学級での定期的な面談や相談の機会を設けたり､月ごとに実施している生活アンケートを通しての実態把握を行ったりと､子どもたちに寄り添った関係づくりを考えていける体制を整えていく。

学校から

「知識・技能」の確実な定着を図ることを目標に、ワークや小テストなどの反復学習に加え、町より提供されているキュビナによる学習をこれまで以上に推進してまいります。特に、毎週水曜日の朝学習の時間を活用し、５分間の個別復習問題に取り組ませたり、長期休業明けには、その時に課題として提示した内容についての復習課題に取り組ませたりと、やりっぱなしにならないような取り組みを進めてまいります。さらに、昨年度同様、授業内で教師が問いかけを通じて生徒の思考を深める場面を多く設け、探究的に学ぶ場面を増やしていきます。その中でも特に今年度は、生徒自身が学びを「選択」し、その知識を「共有」し合う場面を設けていくことで主体的で対話的な深い学習へとつなげてまいります。